平安・鎌倉絵巻に見る庭園植栽の技法

河 原 武 敏*

Garden Planting Designs Shown in Painting Scrolls during the Heian and Kamakura Eras.

Taketoshi KAWAHARA

摘要：平安から鎌倉時代の庭園植栽技法を明らかにするため、31の絵巻を対象に、その場面を195箇所抽出・分類整理した。次いで同時代の作庭秘伝書である『作庭記』及び『山水并野形図』と対照しつつ考察し、新たに斜幹仕立て・双植・交叉配植の多見、建物や工作物の修景配植、保護囲い、愛好された樹種などを確認した。

1 序

伝統的な庭園技法の研究は、史料や遺跡調査のほか関連する様々な分野から行う必要がある。中でも平安鎌倉絵巻は、詞書の背景として現実近く描写され、文字では察し得ぬ部分を視覚的に知れる関係上、建築・風俗等で多くの研究がなされている。特に最近、全集の発行によって従前の研究が絵巻の部分引用にとどまっていたのに対し、隅々までその研究を可能とした。本研究は絵巻の庭園植栽場面すべてを抽出し、同時代の作庭書『作庭記』及び『山水并野形図』と対照しつつ、植栽技法を考察する。

対象とした絵巻は31。12世紀の源氏物語絵巻・伴大納言絵詞・信貴山縁起・年中行事絵巻・粉河寺縁起・寝覚物語絵巻・彦火々出見尊絵巻・葉月物語絵巻・13世紀の北野天神縁起（承久本1219年）・紫式部日記絵詞・地藏菩薩靈驗記絵・隆房卿艶詞絵巻・西行物語絵巻・男衾三郎絵詞・伊勢名所絵歌合・東征伝絵巻（1298）・一遍上人絵伝（1299）・14世紀絵巻の駒競行幸絵巻・遊行上人縁起絵・春日権現験記絵（1311）・なよ竹物語絵巻・小野雪見御幸絵巻・伊勢物語絵巻・長谷雄草紙・法然上人絵伝・住吉物語絵巻・善信聖人伝絵・石山寺縁起（1325）・豊明絵草子・直幹中文絵詞・慕帰絵（1351）である。

なお図版は中央公論社『日本絵巻大成』及び角川書店『新修日本絵巻物全集』を、作庭秘伝書は上原敬二『造園古書叢書』のものを使用した。

2 植栽描写

絵巻の配列は年代順。場面毎に分類番号を付け、各々の描写状況・庭園所在地・巻数を示すと次の通りである。

(1) 源氏物語絵巻 001 月影ほのかな夕暮時、松の枝に藤花が掛かり夜風になびく：花散里邸・15帖蓬生。

002 野風に吹きすさぶ風に揺れる桔梗・萩・女郎花・薄キキョウ ハギ オミナエシ スズキ；二条院・40帖御法。003 縁先に紅梅、枝に鶯、根元に葉と笹らしきもの：玉鬘邸御念誦堂・44帖竹河。コウバイ ヒコバネ004 壺庭中央の満開の桜に基の勝負を賭けている：玉鬘邸・44帖竹河。005 羅文付き青竹透垣に色づいた鳥、垣裾に薄：八ノ宮の宇治山荘・45帖橋姫。006 縁先近くに秋の草花、萩、薄、女郎花に露玉落ちる：二条院・49帖宿木。ワレモコウ007 縁先に薄、女郎花、吾木香、八重葎茂れる庭：三条辺の方違所の家・50帖東屋。

(2) 伴大納言絵詞 008 寝殿西向いの右側に呉竹台、その囲垣は角格子：内裏の仁寿殿・上巻。

(3) 信貴山縁起 009 寝殿左に河竹台、囲垣上部に羅文飾り：内裏の清涼殿・延喜加持の巻。010 裏門脇の竹柵内に瓜と黍の穂：山崎の長者の家・飛倉の巻1紙。

(4) 年中行事絵巻 011 寝殿前に囲垣なき紅梅の対植、西ノ対に落葉樹の出隅植栽、その下に薄の群植。池の磯石に黒松、橋木の木として黒松と落葉樹の双植。釣殿池辺にも落葉樹の双植。東ノ対東側に白梅林、背後には赤松林：法住寺殿・1巻朝観行幸。012 関白、舞人達の競馬御覧の縁先に稚松に稚松の疎群植：賀茂下社・2巻賀茂詣。013 遣水の回り石は苔むし水辺植物が一叢。東ノ対床東石周辺に緑濃い下草：或る貴族・3巻斗鶏。

014 寝殿入隅の桜・松・柳・楓の林中で貴族達が蹴鞠遊び：或る貴族邸・3巻蹴鞠。015 右近の橋に花と実、根元に下草、囲垣はない：紫宸殿・4巻射遣賭弓。016 御修法の壇所前、楓が正面に対植：内裏の真言院・6巻

* 東京農業大学農学部造園学科

御斎会。 017 寝殿左に河竹台、囲垣に羅文飾りなし：内裏の清涼殿・7巻御斎会。 018 寝殿階前の松に藤が掛かる：或る貴族邸・10巻六月萩。 019 透渡廊から遣水あたりに菅葎らしい湿性植物：或る貴族邸・10巻六月萩。 020 舞殿前の斎庭に棕櫚の単植：京都梅宮社・12巻梅宮祭。 021 御堂前に棕櫚の対植：京都梅宮社・12巻梅宮祭。 022 寝殿左に河竹台：内裏清涼殿・12巻叙位。

(5) 粉河寺縁起 023 縁先と網代垣の間に赤実の柿と柘榴の双植：或る長者の家・3段。 024 別棟に渡る掛板橋手前、建物出隅に赤実の柿：或る長者の家・3段。 025 武家屋敷板塀の背後に竹林、矢止めや矢造り用か：河内の長者の家・3段。

(6) 寝覚物語絵巻 026 満開の桜が群植、その下で3人の童子が車座になって合奏：寝覚の君邸・絵1段。 027 寝殿隅の縁先に松に掛る藤花を童女が見上げている：冷泉院女御邸・絵2段。 028 暁の空に月、縁先に枝からむ二樹：三ノ宮中納言邸・絵3段。

(7) 彦火々出見尊絵巻 029 縁側出隅に苔付捨石を伴う落葉樹：兄尊の家・4巻3紙。 030 縁側出隅に山桜、捨石を伴い近くに遣水：兄尊の家・4巻8紙。

(8) 葉月物語絵巻 031 縁先に苔むした小築山、薄萩、女郎花の前栽：下京辺の女房邸・2段。 032 縁先近く薄萩、女郎花、苔が一叢：下京辺の女房邸・5段。

(9) 北野天神縁起 033 縁側入隅に満開の紅梅の古木、手入れの跡が明らかな：菅原是善邸・1巻1段。 034 西ノ対脇に白梅、庭南に西から紅梅、枝垂柳、稚松の仕立てもの、桜：菅原是善邸・1巻1段。 035 築山上に枝振りよき古木の白梅、根上りが著るしい：菅原是善邸・1巻2段。 036 縁先近くの小築山に紅梅：菅原是善邸・1巻2段。 037 簀子縁と立部の狭い空間に稚松の単植：菅原是善邸・1巻3段。 038 南庭遣水脇に竹製二段輪状の草花保護柵、春早く草花は見えない：菅原道真の紅梅殿・3巻3段。 039 縁側出隅に紅梅、縁下に遣水、苔むした捨石が若干見える：菅原道真の紅梅殿・3巻3段。 040 二棟間を渡板で連絡した狭い庭に稚松の単植：菅原道真の紅梅殿・3巻3段。 041 寝殿階近く呉竹台、中に紅梅：中納言紀長谷雄邸・4巻4段。 042 間垣内に薄萩・萩・桔梗・竜胆に紅白の菊：或る僧房、5巻1段。 043 遣水周辺に萩、桔梗・小笹と菅らしいもの、池に水蓮と蓮：尊意僧正の法性房・5巻3段。 044 縁先近く四角の柴木囲い、中に赤い草花：尊意僧正の正法房・5巻3段。 045 縁先に白菊大輪の群れ、間垣に萩、紅葉した蕁、薄萩、竜胆：太宰府の菅原道真邸所・4巻3段。

(10) 紫式部日記絵詞 046 縁先近い小築山に松、山裾には枯れた竜胆と薄萩：土御門殿・1段。 047 池対岸築山に紅葉樹、菊、薄萩、竜胆：土御門殿・2段。 048 寝殿東廂前に女郎花、薄萩、萩の前栽：土御門殿・4段。

(11) 地藏菩薩靈驗記 049 神殿脇の小祠背後に梅の大樹：春日神社・4段。 050 土上門の内脇に垂枝柳の大木3本：興福寺狛行高邸・5段。

(12) 隆房卿艶詞絵巻 051 梅の古木に新芽吹く垂枝柳が掛かる、幹を葎手文字化：清涼殿・2段。 052 老松にからむ藤、その蔓で葎手文字化：清涼殿・2段。

(13) 西行物語絵巻 053 池の大岩に赤松が2本幹を交叉：鳥羽院・1巻3紙。 054 池に張出した岩上に仕立てられた流枝松：法金剛院・2巻5紙。 055 反橋裾に垂枝柳の大樹：法金剛院・2巻6紙。 056 松に二段石積六角形の保護囲い。羅文飾付き：高野山灌頂堂・2巻15紙。 057 釣殿床東石と出島周辺に菅状の湿性植物。 058 二つの岩島状中島に満開の桜：河内国弘川寺・3巻26紙。 059 間垣内に仕立てられた松と樺の双植：西行庵隣りの僧房・2段。 060 網代生垣の外に垂枝柳の大樹、梢に雌雄の鶏：佐藤義清邸・渡辺本1巻17紙。 061 小柴垣裏の築山に赤松の双植：高野山覚法親王庵室・渡辺本2巻14紙。 062 建物入隅に松、主幹斜出し副幹は下部から上向き仕立て：冷泉局邸・渡辺本2巻17紙。 063 網代垣外側に紅梅、梢切詰め洞多し：西行の庵室・萬野本2段。 064 洞のある柏らしい古木と梢を巻いた松とが双植、根元に捨石：嵯峨の聖の僧房・徳川本10紙。

(14) 男衾三郎絵詞 065 縁先立部のある出隅に紅梅：武蔵国吉見三郎館・1段。 066 二棟間に立部で囲まれ一叢の竹植栽：武蔵国吉見三郎館・1段。 067 対の屋出隅に五本株立桜が満開、管弦の音：武蔵国吉見三郎館・1段。 068 釣殿脇に根上りした赤松に藤がからむ：武蔵国の或る国司館・1段。 069 主庭中央近く桐の大樹、根元に萱草らしき草と笹：武蔵国吉見三郎館・2段。 070 唐破風門内脇に松と紅白の花木：武蔵国吉見三郎館・2段。 071 高欄簀子縁先に大きな萩の群：武蔵国吉見三郎館。 072 渡廊のある細長い小坪庭に梅：武蔵国の或る国司館・7段。

(15) 伊勢新名所絵歌合 073 連子窓白壁塀脇に松が双植：藤波里の大中臣館。 074 家の背後に大楓、小柴垣周辺に女郎花・薄萩：伊勢国岡本里の賤ヶ家。

(16) 東征伝絵巻 075 中門廊と連子窓白壁塀との入隅に紅梅：内裏中門廊外庭・5巻21紙。 076 建物と廊の入隅に根元から主副二本の幹立紅梅：清涼殿・5巻24紙。

(17) 一遍上人絵伝 077 四足門脇に山桜、白壁回廊に杉など常落混交の隅植栽、本堂正面に落葉樹の双植：信濃国善光寺・1巻3段。 078 堂前の三結松に六角形の樹木囲い：高野山御影堂・2巻9段。 079 本堂脇遣水護岸大岩上に姿整った流枝松が3本：伊予国三輩九品道場・3巻2段。 080 離れの建物を仕切る網代垣に白花咲く朝顔が絡む：備前国藤井の政所邸・4巻3段。

081 中島両端の岩上に流枝松：伊豆国三島神社・6巻1

段。 082 二棟の造幣殿正面に杉か桧らしい針葉樹の双植，社殿背後には常闊混交で大樹5本が列植：山城国石清水八幡宮・9巻1段。 083 網代垣入隅に花咲く紅梅：天王寺如上一上人住房・9巻2段。

(18) 駒競行幸絵巻 084 釣殿脇の小築山に紅葉した楓の双植：高陽院・久保家本。 085 釣殿脇に楓4本と松1本が群植。汀近く白菊が3群：高陽院・久保家本。 086 寝殿出隅に楓，反対の出隅に広葉樹：高陽院・久保家本。

(19) 遊行上人縁起絵 087 縁先竹編垣入隅に見事に花咲く梅の単植：備前国藤井の領主館・1巻3段。 088 縁先小起伏状上に苔付き広葉樹の双植：上野国遊行上人の房・5巻3段。 089 縁先築山上に松の双植，1本は流枝状：加賀国今湊の御房・5巻4段。 090 縁先に下枝の上った広葉樹の双植：早斐国小笠原道場・8巻1段。 091 縁先築山上によく手入れされた松の双植，幹に苔：相模国浄阿の住房・8巻3段。 092 遣水周辺に萩・稚松，築山に菊，撫子：相川浄阿の住房・8巻3段。 093 板葺門に苔むした松の門脇植栽，双植され主幹交叉：伊勢神宮・9巻1段。

(20) 春日権現験記絵 094 建物と裏山との間に根上りした竹林：藤原吉兼邸・1巻3段。 095 築山上に松と広葉樹が主幹交叉：白河院・1巻4段。 096 階の左に満開の桜，右に藤花のからむ赤松の対植：白河院・2巻1段。 097 寝殿出隅に姿よき広葉樹，根元に捨石，幹は主副が明瞭：関白知足院忠実邸・3巻3段。 098 階の脇に2本の松が主幹を交叉：法性寺殿・3巻5段。 099 野筋に八重咲の紅梅と稚松，赤と桃色の菊。遣水の景石は苔むし下草を伴う，背後に赤い小花を付けた灌木，小築山間に薄・萩の群れ，池辺に流枝松が2本：大宮権太夫藤原俊盛邸・5巻2段。 100 社殿入口の松に藤がからみ，近くの樹々にまで及んでいる：春日明神社・5巻3段。 101 下見板羅文上に白花をつけた糸瓜，実が2つ見える：開蓮房比丘尼の住房・7巻2段。 102 神殿脇に囲垣の付いた棕櫚の木：尾張国熱田社・8巻5段。 104 竹簀子縁隅に松の太木が2本，根元近くで主幹交叉。 105 塀入隅に稚松と数本の広葉樹：興福寺喜多院閤9巻1段。 106 縁先入隅に小白花の橘，その周辺は正方形切石の縁石：興福寺喜多院・9巻2段。 107 閤伽桶台背後に楓らしい大樹：高野山の或る住房・9巻3段。 108 瑞垣内の楓に藤が掛かり，垣外の松2本にまで伸びる：春日明神若宮・10巻1段。 109 庭中央に赤松と広葉樹の双植，根元に捨石と下草：比叡山座主教園の房・10巻6段。 110 拝殿隅にある小祠背後に楓らしい大樹と稚松2本：春日神社・11巻4段。 111 拝殿脇に実付橘とその保護囲い：春日神社・12巻5段。 112 塀内中庭縁先に女郎花と薄，稚松2本：大乗院の住房・15巻4段。 113 網代垣入隅に白梅，枝先に大きな糞虫

4匹：橘氏女の住居・17巻3段。 114 縁先三方を間垣で仕切り，中に女郎花・薄・ホオズキの秋枯れ，西南隅に糞虫の垂れる白梅単植：橘氏女の家・18巻2段。 115 楓の稚樹保護に円筒形の木柵，神鹿の被害防止用：春日神社・20巻1段。

(21) なよ竹物語絵巻 116 松・桜・柳・楓林で公卿達は蹴鞠に興じる：花徳門の御壺・絵1段。 117 階脇に羅文飾付呉竹台：仁寿殿・絵3段。 118 板葺門の内脇に垂枝柳の太木，主幹と副幹が交叉：三条白河の某小将邸・絵4段。 119 縁先遣水手前に広葉樹，柄み枝が2つ，根元に薄と蛭：内裏・絵7段。 120 朱塗高欄反橋裾に紅白の草花が群植：内裏・絵7段。

(22) 小野雪見御幸絵巻 121 築山上の松に藤がからむ：小野宮皇太后御所・絵1。 122 樹種不明の双植：皇太后歎子邸・絵2。 123 池辺にある梅の古木太枝に自然木の方杖：皇太后歎子邸・絵2。 124 寝殿前の松と楓らしき樹が主幹交叉：皇太后女院御所・絵4。

(23) 伊勢物語絵巻 125 低木柵で囲まれた菜園に蕎麦など野菜3種：或る貧しい男の家の裏庭・絵3段。

(24) 長谷雄草紙 126 縁先間垣内に萩・女郎花，垣の出隅に柵榴の古木，立枝多し：紀長谷雄邸・4段。

(25) 法然上人絵伝 103 寝殿入口脇の大石上に主副の幹を持った松：九条兼実の月輪殿・8巻5段。 127 堅固な棟門に門脇植栽，竹網代垣の西と東北隅に大樹の入隅植栽，共に樹種は不明，敷地北側は竹林：美作国久米郡稲岡の漆間時国館・1巻1段。 128 縁先に梅，ひこばえと徒長枝が多い：漆間時国館・1巻3段。 129 縁先に垂枝柳と大洞をもつ梅古木の双植：美作国観覚得業住坊・2巻2段。 130 小築山裾に南天と稚松，笹に捨石：南都感俊僧都の住房・4巻3段。 131 切妻門の内脇に垂枝柳と満開の桜の双植：南都感俊僧都の住房・4巻3段。 132 築山上の根上りし梢を曲げた松に藤がからむ：嵯峨の法然上人住房・5巻2段。 133 庭にせまる崖上の老松に藤花が咲き乱れ香たよう：仁和寺慶雅の住房・5巻5段。 134 縁先出隅に2本株立の紅梅，長大な2つのひこばえ：比叡山黒谷の源空住房・8巻3段。 135 楓と松が各々双植，他に樹種不明の双植2組：関白藤原兼実の月輪殿・8巻5段。 136 滝殿脇の楓らしき2本が主幹交叉，根元に捨石：関白藤原兼実の月輪殿・8巻5段。 137 寝殿出隅に楓の単植，根元に仕丁座る：河東押小路の後白河院・9巻3段。 138 朱塗高欄反橋の袂に相生の赤松，袂石も見える：後白河院の法住寺殿・10巻2段。 139 寝殿左に左近の桜，囲垣は付いていない：後白河法皇の法住寺殿・10巻2段。 140 建物入隅と間瀬垣内に紅梅と赤松の双植：関白藤原兼実の月輪殿。 141 中島の根上りした赤松に藤花が咲乱れている：関白藤原兼実の月輪殿・11巻3段。 142 門内に松と梅の双植：東山吉水の法然上人住房。 143 建物

出隅に紅梅、根元に下草：民部卿藤原範光邸・12巻4段。
144 築山上に赤松と山桜の双植・16巻1段。 145 竹簀子縁先にある掛樋や網代垣の背後に薄・女郎花：高野山の明遍僧都住房・16巻4段。 146 網代垣で囲まれた小庭に大輪の白椿大樹、近くに捨石：安居院聖覚住房・17巻1段。 147 寢殿左に苔むした赤松の双植：藤原兼実の小松殿・17巻2段。 148 建物出隅に根上りした紅梅の古木、捨石数個が付く：丹後国の彌勒寺住房・19巻5段。 149 根上りした梅の古木に剪定跡が明瞭：鎌倉の西明寺殿時頼邸・26巻4段。 150 縁先築山上に松と杉の双植、山裾に笹数株：法然上人住房・28巻1段。 151 竹生垣と竹棟門の脇に楓、絡枝多く幹の主副明瞭：法然上人住房・29巻1段。 152 建物入口出隅に幹の主副明瞭で花実付いた橘の木：藤原兼実の月輪殿・31巻3段。 153 御堂前、老桜の横枝に3本の方杖：法性寺御所・33巻4段。 154 縁先に梅の古木、幹の主副仕立て明瞭：讃岐国の生福寺・35巻4段。 155 縁先立部の親柱脇に主副の幹仕立てした南天：大谷吉水の法然上人住房・37巻3段。 156 竹二段柵、中に黄色の実がついた柑子：天王寺の法印静尊住房・38巻1段。 157 釣殿出隅附近の小築山上によく仕立てられた大赤松：菅宰相為長邸・40巻2段。 158 簡素な枠垣の呉竹台：内裏清涼殿・41巻1段。 159 縁先遣水沿いに数株の竹が列植：京都の法然上人住房・46巻2段。 160 縁先に桐、女郎花、桔梗、竜胆が各1株宛配植：筑後国高良山の厨寺・46巻3段。 161 二棟間の垂枝柳と満開の桜が双植：筑後国の善導寺・46巻4段。 162 縁先の間垣内に白菊と薄の群植、背後に竹の生垣：法然上人住房・48巻3段。 163 縁先闕伽桶背後に蔦からむ落葉樹、根元に下草：空阿弥陀仏住房・48巻4段。 164 小柴垣入隅に白梅、幹に剪定の跡明らか：真観房感西住房・48巻6段。

②6 住吉物語絵巻 165 寢殿縁先に垂枝柳と山桜の混植：中納言左衛門督邸・上巻2段。 166 間垣が矩折りに意匠的配置、その中に女郎花・竜胆・薄：中納言左衛門督邸・上巻2段。 167 寢殿出隅に紅梅と山桜の双植、主幹に剪定の跡が明瞭：中納言左衛門督邸・上巻2段。 168 縁先闕伽桶背後と裏山の間に一叢の竹林：乳母の閑居・下巻1段。 169 網代垣出隅に実を付けた栗と稚松：乳母の閑居・下巻1段。

②7 善信聖人絵 170 縁先入隅の小築山上に根上りした松、幹に洞：慈園住房・上巻1段。 171 縁先に輪状二段の竹柵、小灌木保護用：吉水の住房・上巻5段。 172 階前の右に呉竹台、左に梅、出隅縁近くに桜：内裏・下巻1段。 173 呉竹台に斜格子の囲垣、羅文飾りは見えない：内裏・下巻1段。 174 豎羽目板塀に蔓性植物、樹種は不明：常陸国笠間郡稲田の住房・下巻4段。 193 四本柱屋根付保護柵内に数株の草花：黒谷の住房・専修寺高田本。 176 紅葉した楓と松の主幹が絡み合い

交叉：聖人の住房・高田本上巻5段。

②8 石山寺縁起 177 多彩な菊の群れに作り物の鶴：打出浜の飯屋・1巻4段。 178 手入れのよい赤松、その梢は「の」の字型に仕立てられ幹中程で交叉、頬杖付：石山寺・4巻3段。 179 格子立部出隅に主副2本仕立てした紅実付南天：式部小輔藤原国能邸・5巻1段。 180 桧垣入隅の赤松2本が主幹交叉：石山寺の朗澄律師住房・6巻2段。 181 掛樋背後に白い花木の控配植：園城寺・7巻1段。 182 縁先近く苔付幹の美しい2本の赤松が主幹交叉：園城寺・7巻1段。

②9 豊明草子 183 縁先に菊・薄・女郎花、鈴虫が放たれ琵琶と琴の合奏：或る御殿・絵1段。 184 小さな壺庭によく手入れされた赤松の単植：或る貴公子夫妻の家：絵1段。 185 縁先小築山上に切株武者立ちの楓、萩・薄が叢生：山の庵・絵5段。

③0 直幹申文絵詞 186 寢殿左に河竹台、右に呉竹台、両者の囲垣に羅文飾り付くも格子は付かない：内裏の清涼殿・3段。

③1 慕婦絵 187 小築山上によく仕立てられ、根上りして洞を有する赤松、ほかに葉物の灌木：三条富小路覚恵邸・1巻1段。 188 縁側と柴垣の間に紅白の八重咲菊が多数咲き、かたわらに萩が一叢：三条富小路覚恵邸・1巻2段。 189 蔦のからむ立部入隅に薄の群植：三条富小路覚恵邸・1巻2段。 190 縁先膳脱台の脇に梅古木、捨石に葉蘭：三条富小路覚恵邸・1巻2段。 191 主副に仕立てた幹を互いに交叉させた松：考恩院印覚の住房・3巻1段。 192 楓と松が主幹交叉、剪定の跡が明らか：考恩院印覚の住房・3巻1段。 193 縁先の目閑垣に楓、根元に大小の捨石と下草：考恩院行寛法院の住房・3巻2段。 194 池の手前に南天、水辺に女郎花・稚松・花灌木、磯石近く水辺植栽、池辺立石上に姿よき小さな流枝松：覚如の京都竹杖庵・8巻2段。 195 冠木門の内脇に五弁の山桜が満開：西山の久遠寺・9巻3段。

3 考 察

(1) 植栽描写の類型化

植栽場面は195、28に類型される。肩数字は各々の場面数。①典型的な庭園配植⁶：上流貴族邸011は寢殿造り南庭。中流貴族邸004・099は廊等で仕切られ室内縁先からの観賞本位。地方民家114は柵内に主木と前栽程度。武士館127は実用本位。僧の住房194は観賞性強まる②境内配植²：077・082郷土木が目立ち植栽少い。③前栽²³：秋草多く樹種少い002・006・007・031・032・046・047・048・183・185、時代を経ると垣が加り群植045・042・043・071・074・092・112・126・145・160・162・166・188。④遣水配植³：淀みに湿性植物、回り石に苔013・019・057。⑤壺庭配植⁵：花木や松の孤植004・040・051・072・184。⑥建物入隅配植⁸

：建物修景用，花木や景観木を配慮 033・062・075・076・149・154・170。⑦建物出隅配植¹⁴：大樹を使う傾向多い 024 029・030・036・039・065・067・097・134・137・143・148・152・167。⑧門脇配植⁸：門内左右脇 050・070・118・131・151・178 195のほか門前もある 093。⑨小祠の控配植²：修景効果が大 049・110。⑩橋本の木²：反橋の引立役 055・138。⑪掛樋等の控配植³：181・163・107。⑫塀垣の引立配植¹¹：入隅 066・083・087・113・164・189，出隅 169・179・193，親柱添え 037・155がある。⑬塀垣の蔓物配植⁴：蔦や朝顔等 055 080・101・174。典型的な⑭孤植¹⁶には整った樹が多い 003・015・020・035・060・063・069・103・119・128・139・146・157・187・190・191。⑮対植⁵：入口の左右対称植え 016・021 086・096・172。⑯双植¹⁹：相生松状のもの 023・059・061・073・084・088・089・090・091・109・122・129・135・140・142・144・147・150・161。⑰主幹交叉植¹¹：幹を χ 形に交叉 028・053・095・098・104・124・136・176・180・182・192。⑱群植⁶：混植もある 012・026・085・105・130・165。⑲竹林⁴：建物背後の保安用 025・044・059・168。⑳蹴鞠懸りの木²：規定通り配植 014・116。㉑松に藤¹¹：皇室と藤原家の共栄，描写多い 001・018・027・052・068・100・108・121・132・133・141。㉒流枝松³：重要景観となる 054・079・081。㉓菜園²：柵内に野菜 010・125。㉔其他³：中島の桜 058 橋袂の草花群植 120 仮屋の菊 177。㉕呉竹・河竹台⁸：囲垣飾りに変化 008・009 017・022・117・173・158・186。㉖樹木保護囲い⁹：囲垣・竹柵や玉石切石の縁石 041・056・078・102・106・111・115・156 171。㉗草花保護柵³：竹柵，上屋付もある 038・044・175 ㉘方杖²：斜幹に又状枝を使用している 123・153。

更に大きく類型化すると庭園区分に関係する配植・建物工作物の控配植・植栽単位・保護施設となる。

(2) 作庭秘伝書との関係

奥書が正応2年(1289)の『作庭記』，文安5年(1448)写本の『山水并野形図』（以下平仮名文が前者，片仮名文が後者を示す）。①「東には花の木をうへ，西にはもみちの木をうふべし」「釣殿のほとりにはかへてやうの夏こたち，すすしけならん木をうふべし」。寝殿造り庭園の配植を示し「法住寺殿」東ノ対の東側に白梅林，西ノ対出隅や釣殿近く落葉樹 011，「高陽院」釣殿脇小葉山上の楓双植など 048・058 が好例。②「一，野スギト言ハ只山ノ風情也，是ニハ石ヲサシテ立不，只，木草ヲ植テ野山ノ風情ニムネトスヘシ」「遣水のほとりの野筋にはおほきにはひこる前栽をうふへからす」。「藤原は善邸」の野筋配植 034，「菅原道真の紅梅殿」の遣水周辺配植 038，「藤原俊盛邸」の灌木草花の疎ら配植 099 に合致。③「槐はかとのほとりにうふべし」「門前に柳をうふること由緒侍か，但，門柳はしかるへき人，若は時の権門にうふへきとか」。門脇に垂枝柳・松・楓・桜の配植例はあるが，大臣家の異称「槐門」^{エンジュ}の槐は見えない。一般の家には14世紀の法然上人住房以后に出現。④「一，

梅ハ峯モ山モ里モクルシカラズ」「一，梅ハ岸モ谷モ野モクルシカラス……梅ハ勾面白物ナレハ，其所ノ家居，風情ニヨリテ風ノツネニ吹ク方ニ可植也」。梅の縁先配植の多いのは花の香を珍重したためで35例，中でも紅梅が多い。⑤「一，木植様，松ヲバ山ヲモ峯ヲモ野ヲモ原ヲモ座シキヲ嫌事ナシ，但ソレハ山水ノケイニ伝テ見合テウヘキ也……タタ松ハイカヤウニ植テモ面白シ」。松の描写が70例と最も多いのは如何なる景にも調和する記述と合う。⑥「一，桜ハ峯山深山イヅクニアレドムネトハリニ心ニカクベシ……座敷ハ南ヲ方ト心ニセクベシ，又桜ハ木ノ風情ダニアレバイカナル所ニモ植タルニナンニハアラヌ也」。桜も19例と多く日照よき所に邸は里桜系，郊外は山桜系が目立つ。⑦「一，鶏冠木，是ヲムネト心ニカケヨ，植テ吉也……是モ座敷一所ニアレバ其余ハ風情ニ伝テ植ベシ」。楓のことで20例と多く風情を生かした例のほか孤植斜幹仕立の多いのは「一，木ヲ尋時横，斜，徑ノ三ヨク心得テ取ヘシ」と合致。⑧「一，又，曲木，ミチヲフセグト言事アリ，仮令是ハクルウタル木ヲシゲクウエテ中ヲ人ノトヲラサルホドヲフセグト言リ」。主幹の χ 形交叉の姿は多出する。11例。悪霊の通りを防ぐ吉凶思想に基づき現代はかへって嫌う。⑨「一，木草ヲ植ソニ本所ヲマナブト言リ」。植位置は樹の特性を生かすこと，描写にも配慮されている。⑩「一，竹ハ北方ニ可植也，体ニヨリテ可植者也」。建物北側山沿いに保安配植，武士館では矢止めや矢作り用に多い。⑪「一，藤ハ松ナクシテハ植事シラレズ」。12世紀最初の絵巻『源氏物語絵巻』001ほか10例あり，家永三郎『上代倭絵全史』(高桐書院1946 P. 98)は松を皇室，藤を藤家に例え，両者の深い関係を象徴するとしている。

以上，『作庭記』の植栽全項目21文中6文，『山水并野形図』のそれは54文中15文，全体の28%が出現し絵巻との関係を見せている。

(3) 判明した樹種

多い順に配列すると①樹木の16種。松⁷⁰(個所)，うち赤松¹⁷・稚松¹²・黒松²⁰の順。梅³⁵は紅梅¹⁸が最も多く 次いで白梅⁶。楓²⁰・柳¹²のほか橘⁴・棕櫚³・杉³・松²・柿²・柘榴²・桐²・櫻¹・柏¹・白椿¹・栗¹。②灌木は2種。萩¹⁴が多く次が南天⁴，竹⁸。③蔓性植物は4種。藤¹²・蔦⁴・朝顔¹・糸瓜¹。④草花は9種，秋草が圧倒的に多く薄²²・女郎花¹⁵・菊¹⁰・竜胆⁶・桔梗⁶・吾木香¹・菅草¹・はおづき¹・撫子¹。⑤下草は3種，笹⁵・菅³・葉蘭¹。⑥水辺植物は3種で水蓮¹・蓮¹・葦¹。⑦菜園野菜は3種で瓜¹・黍¹・蕎麦¹。以上40種である。

4 結 び

この研究によって，同時代の作庭秘伝書で述べられた典型的な庭園配植・門脇配植・単位植栽としての孤植・双植・対植・交叉植え・竹林技法のほか，絵巻から前栽

・遣水周辺・壺庭・境内配植や後世の技法と考えられていた建物工作物に対する役木などの修景配植例や愛用された樹種名、剪定や保護施設に至る管理面までうかがい知ることが出来た。これは絵巻が創作の所産でありながら、有職故実の大きな柱として他の分野で活用されている事実と合致するものと言えよう。今後はこの研究が対象とした植栽技法のほか、池泉・遣水・岩組・庭垣その他庭園施設について更に検討を進める必要性を感じている。なお、この研究は昭和54年度東京農業大学プロジェクト研究として助成金の支給を受けたことを付記しておく。

主 要 文 献

- 1) 田中一松監修（1975）：新修日本絵巻全集 全30巻 角川書店
- 2) 小松茂美編（1977）：日本絵巻大成 全26巻 中央公論社
- 3) 小松茂美編（1981）：続・日本絵巻大成 全20巻 中央公論社
- 4) 渋沢敬三（1984）：日本常民生活絵引 全5巻 平凡社
- 5) 東京国立博物館編（1975）：絵巻 便利堂
- 6) 奥平英雄（1957）：絵巻 美術出版社
- 7) 下店静市（1944）：唐絵と大和絵 駸々堂
- 8) 家永三郎（1946）：上代倭絵全史 高桐書院
- 9) “ （1966）：上代倭絵年表 墨水書房
- 10) 鈴木敬三（1960）：初期絵巻物の風俗史的研究 吉川弘文館
- 11) 白畑よし（1967）：やまと絵 河原書店
- 12) 東京国立博物館（1974）：特別展絵巻目録
- 13) 上原敬二（1982）：解説山水並に野形図・作庭記 加島書店
- 14) 田村 剛（1964）：作庭記 相模書房
- 15) 久恒秀治（1976）：作庭記秘抄 誠文堂新光社

Summary : This study explains garden paintings in the period of Heian through Kamakura, the 12th to the first half of the 14th centuries, by analyzing painting scrolls of this period in purpose of completing the Japanese garden history. The results are as follows:

- 1) The plant in Senzai is mainly autumn shrubs and flowers and is limited to its species. The planting patterns becomes more group-wise in the earlier period.
- 2) The planting around a garden stream is arranged at important spots and is few.
- 3) There is one or two trees planted effectively at the inter and outer angles of the building.
- 4) Supporting trees are arranged beside or behind garden facilities such as a gate, garden shrine, bridge, hedge, etc.
- 5) As planting designs, trees are often arranged in a form of a couple, for example, crossing main stems.
- 6) A design of Japanese wisteria entwining pine trees, which symbolizes the relations between the Imperial family and the Fujiwaras is observed.
- 7) There are protecting fences for plants and also an evidence of maintenance.